

ISSN 0454-8302

神奈川歯学

KANAGAWA SHIGAKU



第48巻 抄録集 2013年学会総会
Vol. 48. Abstracts. November 2013

神奈川歯科大学学会雑誌
The Journal of the Kanagawa Odontological Society

CT画像を用いた上顎洞底および上顎歯列弓の解剖学的形態計測

45 Morphologic Measurement of the Maxillary Sinus Floor and the upper dental arch using CBCT Images

○渡辺孝夫, 今富収治, 西尾和彦, 高橋雄輔, 前田信吾, 高橋常男 (画像解剖)

【目的】頬骨歯槽稜の外形線と側頭下窩の前方辺縁の交点をZAC点として, 上顎および上顎洞底の新たな解剖学的計測基点として注目している. 本研究ではZAC点以下の上顎洞を上顎洞底とし, この高さの水平面以下の上顎洞構造について解剖学的計測をおこなった. 本研究の目的はCBCT・DICOMデータを用いてZAC点を基点として上顎洞底および上顎歯列弓の解剖学的計測を行い, 上顎洞底と上顎歯列弓の関係およびZAC点の臨床的意義を検討した. 【対象と方法】対象は50症例(男性15名, 女性35名), 平均年齢56歳(31~71歳)であった. CT撮影装置はPrevista (Kyocera Medical co. Ltd, 日本)を使用した. 計測はインプラントシミュレーションソフトSimPlant Pro 11® (Materialise Dental Ltd., Belgium)を使用した. 【結果】左右ZAC点間線における上顎洞底の幅径は 26.1 ± 1.7 mmで最大であった. この位置での上顎洞底の深さは15.3 mmで, 最深であった. 左右ZAC点間線の長さとお顎洞底の幅径の間には強い相関があった(相関係数; 右0.771, 左0.746). しかし, 左右ZAC点間線の長さとお顎第一大臼歯冠の副径との間には相関はみられなかった(相関係数0.270). 【考察と結語】有歯時では第一大臼歯の歯冠幅径内にZAC点が位置し, 洞底の最大幅径部, 最深部に相当した. ZAC点の位置を上顎洞底を前方と後方に分ける位置とすると, 後方径は前方径より長かった. また, 前後径は幅径より長かった. 左右のZAC点間の長さとお顎洞底の幅径および前後径との間には正の強い相関がみられた. しかし, 上顎歯列弓の幅径との間には相関はみられなかった. これらの結果から, 上顎洞底とお顎歯列弓には形態学的関連はないと考えられた.

Midline から歯冠形態を考慮した審美的前歯部修復法の臨床術式

46

○山中 秀起^{1, 2} 竹田 仁一¹ 向井 義晴¹

(¹う蝕制御 ²総合診療科)

【目的】Minimal-Intervention 概念の普及と歯質接着技法の急速な進歩により, 前歯の審美的治療処置として歯質接着性直接充填法の適用が拡大している. 前歯部の審美的解決において考慮すべき項目のなかで正中線を歯冠形態判断の基準とすることは重要である. 今回, 正中線の審美不良を訴える患者の前歯に対して審美的な修復治療を行うにあたって, Midline を考慮し形態を再現した光重合型コンポジットレジン充填修復症例を報告する. 【方法】症例は, 神奈川歯科大学附属病院に不良コンポジットレジン修復による審美障害を主訴として来院した成人女性患者であった. 術前に顔貌と口腔との正中線の位置関係を診査しフェースボウトランスファーした診断用模型に歯冠長, 歯の豊隆, 歯の幅径の審美的診断を行った上でワックスアップを行い, 舌面シリコーンインデックスを作製した. 防湿を施した後, 健全歯質を削除し, 舌面シリコーンインデックスを用い, 光重合型コンポジットレジンにより修復した. 【結果および考察】正中線の不良を主訴とした患者のMidline を考慮して舌面シリコーンインデックスを用いた光重合型コンポジットレジンの直接充填は, 簡便にシンメトリーな歯牙関係を構築でき, MI 概念に基づく極めて審美性に優れた修復を施すことができる有用な治療法であることが示された.